

経営比較分析表（令和6年度決算）

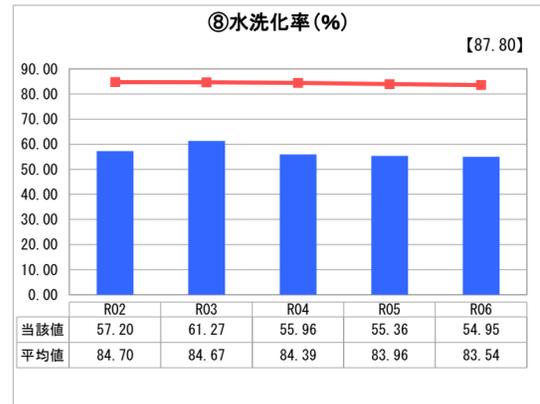
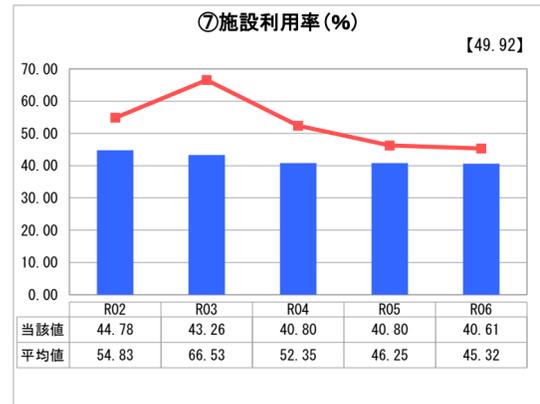
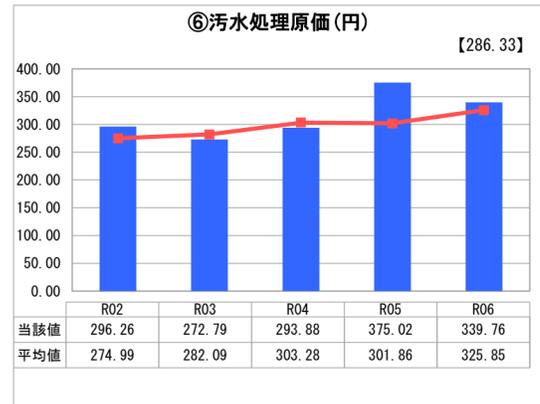
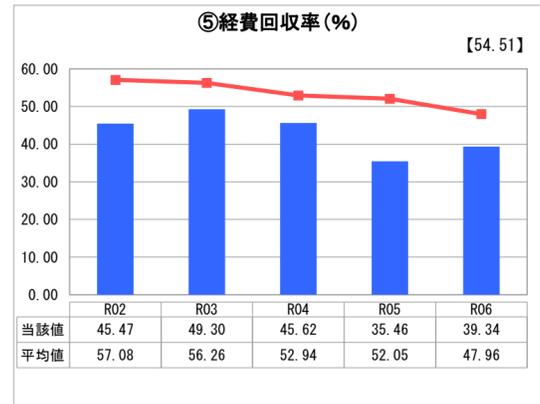
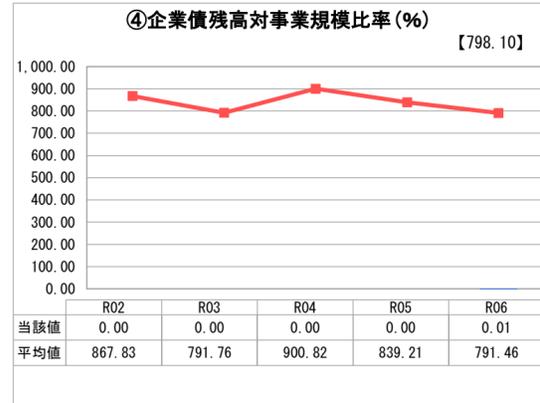
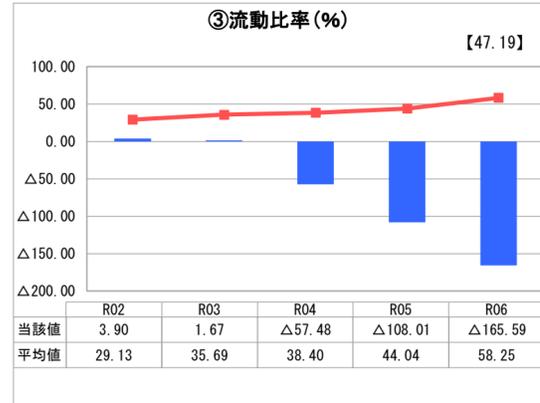
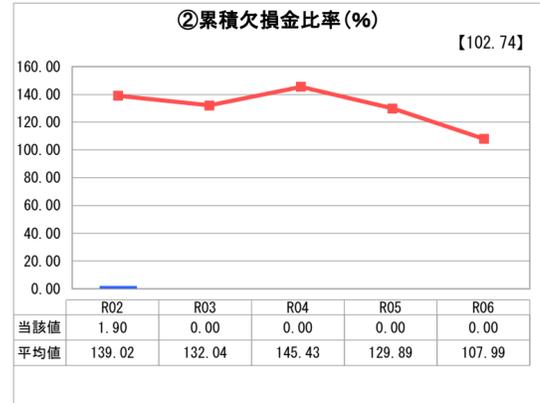
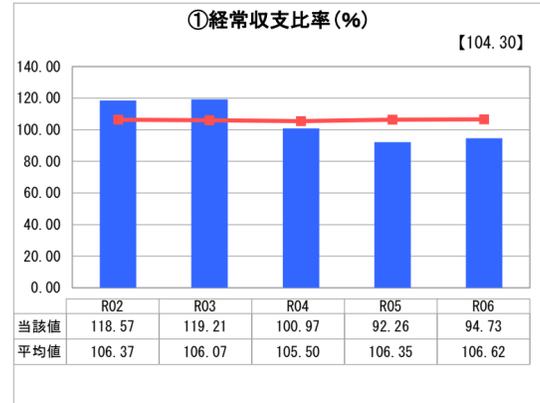
兵庫県 加古川市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F2	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	40.43	1.00	94.23	2,530

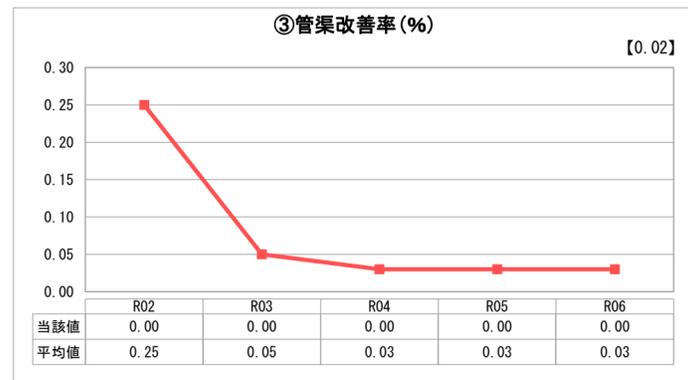
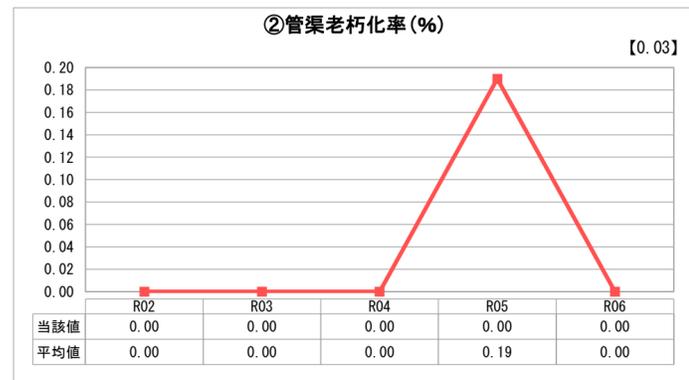
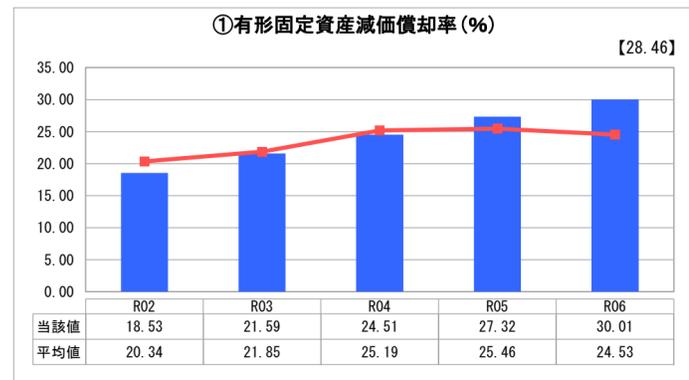
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
257,203	138.48	1,857.33
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
2,575	0.36	7,152.78

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率
平成27年度法適用前からの引継ぎ繰越欠損が令和3年度に解消したことに伴い、令和4年度から一般会計補助金が皆減、収益減少となっている。令和6年度は処理場費の減少等により経常費用が減少し、本指標は増加(改善)した。
- ② 流動比率
現金不足額が増加したことにより、流動資産が減少し、本指標も減少(悪化)した。
- ④ 企業債残高対事業規模比率
繰出基準に基づき企業債残高のすべてが一般会計負担額となっており、本指標は0%となる。(端数処理の都合により0.01%となっている)
- ⑤ 経費回収率、⑥ 汚水処理原価
使用料収入が微増。処理場費の減少により汚水処理費が減少し、経費回収率は増加(改善)、汚水処理原価は減少(改善)となった。
- ⑦ 施設利用率
前年度からほぼ横ばい。全国平均・類似団体平均と比べて低く(悪く)、最適な施設規模や効率的な施設利用を検討する必要がある。

2. 老朽化の状況について

当該事業は、平成10年度に建設事業を開始してから26年が経過している。現段階では管渠の老朽化に大きな問題はないと考えられるが、今後も適切な維持管理に努める必要がある。

全体総括

終末処理場を設けない整備手法により、建設費用・維持管理費用の節減を図っている。一方使用料収入は大幅な増加を見込めず、事業運営は苦しい状況にある。維持管理費の削減等により、収支の改善を図っていく必要がある。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。